

めでる



大通寺にて

スポットライト

長浜市の山間へき地における
診療所の現状と将来に向けて

長浜市健康福祉部長 川崎 圭司

特集

春の宿泊研修 in 長浜市方面 2015

病院紹介

済生会滋賀県病院／長浜市立湖北病院

「人」

社会福祉法人 グロー（GLOW）～生きることが光りになる～
特別養護老人ホーム ふくら 金森 暢子

実習情報

医学生・看護学生のための
「病院研修・実習・見学」

Contents

地域自慢

日本史の表舞台になった
長浜市旧浅井町

調査

滋賀医科大学医学科卒業生の卒後動向
2015年3月に卒業した医学生は
進路をどのように決めたのか

滋賀医療人育成協力機構理事
滋賀医科大学里親学生支援室長 埴田 和史

開催報告／活動報告

ご入会・ご寄附のご案内／編集後記

長浜市の山間へき地における診療所の現状と将来に向けて

長浜市健康福祉部長
川崎 圭司

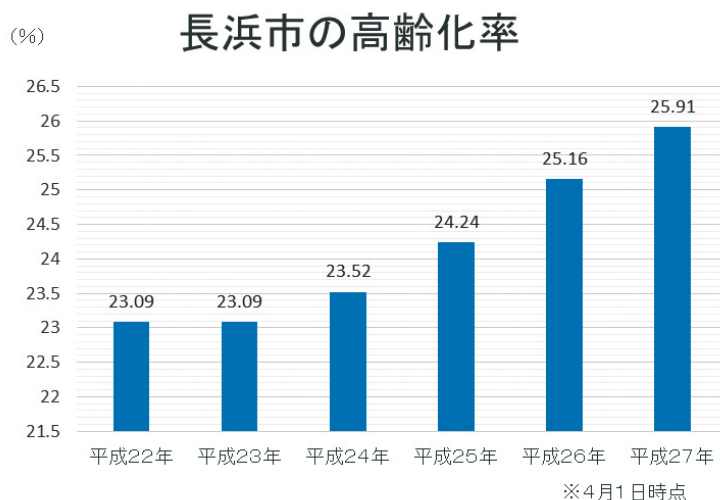


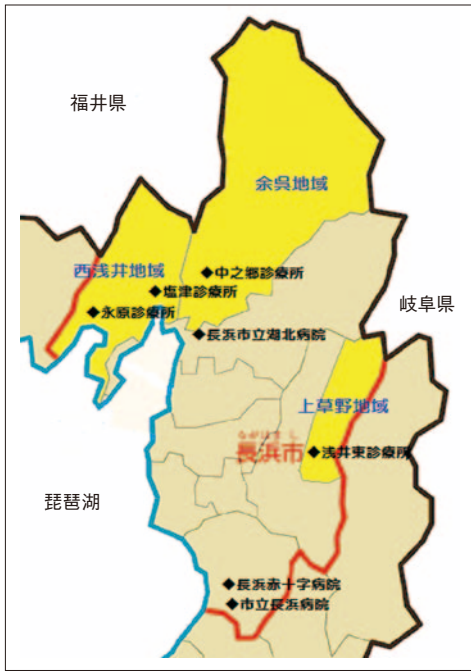
長浜市は滋賀県北部に位置し、面積680.79㎡、人口121,532人、世帯数44,604世帯（平成27年4月1日現在）の、東は伊吹山、西は琵琶湖に面している、水と自然に恵まれた山紫水明のまちです。

さて、国では高齢化率がピークを迎える2025年に向けて、医療と福祉が連携し切れ目のない医療を確保するための準備が進められていますが、長浜市の高齢化率も年々高くなっており、平成27年4月1日現在の高齢化率は25.91%と、県全体の高齢化率（23.65%）と比較して、2.26ポイント高くなっています。特に山間へき地及びその周辺地域では高齢化率が高く、独居高齢者及び老々世帯が増える傾向にある中、民間医療機関が少ないため、長浜市が開設する病院及び診療所により地域医療を確保する必要があります。

しかしながら、市域の7割を占める山間部の医療を支える長浜市立湖北病院（へき地拠点病院）や診療所の医師確保には大変苦慮しています。医師確保が厳しい、山間へき地の現状は次のとおりです。

- 長浜市立湖北病院においては、平成17年には23人の常勤医師が在籍していましたが、平成27年現在では15人となっており、非常勤医師による応援体制等で地域医療を確保しています。
- 余呉地域にある中之郷診療所では平成25年12月に常勤医師が退職し、非常勤医師により週4.5日の外来診療を行っています。
- 西浅井地域の塩津診療所・永原診療所では、県から派遣いただいていた医師の派遣期間が平成27年3月末で終了するため、平成24年10月に「長浜市の山間へき地医療を考える協議会」を設置し、地域住民の皆さんと一緒に、将来に渡って安定的に医療が確保できる方法を検討しました。その結果、指定管理者制度を導入することで医師確保を行うこととなり、本年4月から指定管理者による運営を開始しています。





●上草野地域では、地域で唯一の診療所を運営していた医療法人が急遽撤退することとなり、地域医療確保に危機的状況が発生しました。長浜市が浅井東診療所を開設し、指定管理者に運営していただくことで地域医療を確保することができました。

このように医師確保は厳しい状況にありますが、これらの地域では将来のモデルともいえる取組も進んでいます。

●長浜市立湖北病院では、医師の負担軽減と医療資源の有効活用を目的に、京都大学の技術支援を受けて遠隔医療システムの導入を検証しています。平成24年からは、診療所と病院にテレビ会議システムを設置し、診療情報共有の検証を行いました。平成26年には可搬型医療機器を使用した訪問看護での実用化に向けた検証を開始し、現在も引き続き、実証実験を行っています。

●長浜市の在宅看取率は20.4%（滋賀県15.4%、全国12.8%）と高く、山間へき地及びその周辺地域では訪問診療や訪問看護が進んでおり、福祉との連携も始まっています。上草野地域の浅井東診療所では、24時間365日の連絡体制を確保し、訪問看護、訪問介護、訪問リハビリテーションなどのスタッフと連携しながら在宅医療、在宅看取りが実践されているほか、薬剤師による訪問服薬指導や残薬確認も始まっています。

長浜市の山間へき地において、このような取り組みが進んでいるのは、既にこの地域では2025年問題が始まっているからかもしれません。その意味では、地域医療を志す医師、看護師等の医療従事者には、実践が伴う良い研修フィールドと言えるのではないのでしょうか。この強みを生かして、長浜市が地域医療を志す医師、看護師等、医療従事者の研修拠点となり、この地域で育った人材が市内、県内、全国で活躍する、そんな大きな夢をもった仕組みづくりも必要ではないかと考えています。

山間へき地においては、医師や看護師等の安定的な確保のみならず、持続可能な診療所運営のための経営基盤の確立、通院のための交通対策など、課題は山積しており、これらの課題解決には行政、医療従事者、地域住民が三位一体となって取り組むことが必要不可欠です。

今後も限られた医療資源を有効に活用して、地域の理解と協力を得た診療所づくりを進めてまいります。

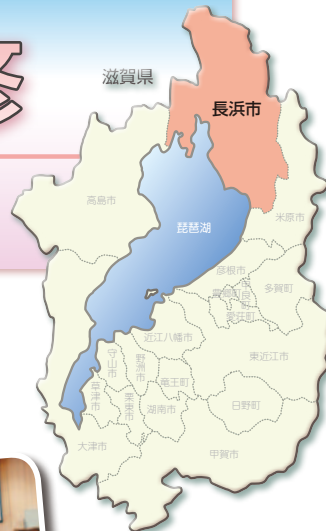


▲琵琶湖に沈む夕日と竹生島

春の宿泊研修

in 長浜市方面 2015

3月18日(水)～19日(木)の2日間、滋賀県で学ぶ医学生・看護学生や滋賀県出身の医学生看護学生を対象とした地域・医療理解のための宿泊研修を実施しました。研修には、滋賀医科大学の医学生と看護学生9名が参加しました。



1日目◆長浜市の中心市街地を見学、地域の中核病院を訪問しました

曳山博物館・大通寺・黒壁スクエア（見学）

長浜市健康推進課長から「長浜市の地域医療」についてお話を聞き、その後、長浜曳山祭りの山車などが展示されている博物館などを見学しました。



長浜赤十字病院（説明・見学）

地域での長浜赤十字病院の役割と概要の説明や災害医療のお話を聞き、救急センターやヘリポートを見学しました。



市立長浜病院（説明・見学）

院内見学の後、現在勤務されている先輩医師や看護師の方から市立長浜病院を勤務先に決めた理由などのお話をききました。



長浜ロイヤルホテル（交流会・宿泊）

交流会第1部 浅井東診療所副所長 宮地純一郎氏から翌日に実施する現場見学をいかす3つの方法について、特別養護老人ホームふくら 主任看護師 金森暢子氏からは「一人ひとり 暮らしのカタチ 看取りのカタチ」として施設看取りと家庭医との連携について講演いただきました。

交流会第2部 研修先の方や里親・プチ里親との情報交換や交流の場となりました。



2日目◆浅井東診療所でフィールドワークをし、個々の体験を発表、高月町、木之本町を見学

浅井東診療所（フィールドワーク・報告会）

それぞれ希望したコースに分かれて実際の現場を見学、その後、持ち帰った内容を振り返り、個々の体験を共有する場を持ちました。



渡岸寺観音堂（説明・見学）

日本全国に7体ある国宝十一面観音の中でも最も美しいとされる観音さまを拝観しました。

長浜市立湖北病院（車中見学）



■2日間の宿泊研修

浅井東診療所 副所長 宮地 純一郎



●「医療者の力を感じる2日間」

3月に宿泊研修に参加された医学生・看護学生の皆さん、ご苦労様でした。

初日夕方の講演会では、「現場で求められる医療者の力」について皆さんの活発な議論の後に、特養で患者・家族、介護職、医師をつなぐ立場で活躍されている金森看護師から、特養での看取り事例への関わりについての話をしてもらい、今の現場において、医療職と介護職の連携やチームで育つ文化を作ることが大切であることをお伝えしました。最後にこうした力を身につけるためには、「目標を立てること」「振り返りを行うこと」「チームで学びを対話すること」という3つのコツがあることをお話しし、講演を締めくくりました。

2日目は、「現場同行実習」と称して、長浜市旧浅井町の現場で働く他職種の業務同行または地域住民との対話の機会を持ちました。こちらで用意した選択肢から、表1のような各々の関心ある現場に飛び込みました。ただの見学で終わらないために、同行実習前に目標設定の時間を設け、同行実習後に参加者の皆さんが同行実習で感じ、学んだことを振り返り、チームで対話する時間を設けることで前日にお伝えした3つのコツを実感してもらいました。その場には引率教官の皆様にも参加して頂き、最後に現場の他職種から参加者の皆さんへのメッセージをお送りして実習を終えました。

表1 宿泊研修2日目「現場を知る実習」

①家庭医療外来コース	家庭医の外来を見学するコース
②診療所看護師コース	診療所の外来や訪問同行、デイケアの医療対応など地域に密着した仕事を見学するコース
③訪問看護師コース	訪問看護への同行、見学するコース
④施設(特養)看護師コース	施設での医療対応や看取りケアなどの施設の看護師さんの仕事を見学するコース
⑤地域に密着した薬剤師コース	診療・施設と連携している薬剤師の仕事への同行と見学を行うコース
⑥地域散歩コース	地域を散歩して発見や疑問を集めてもらうコース
⑦住民インタビューコース	地域の住民の医療ニーズや困っている ことなどの話を聴くコース
⑧全人的医療体験コース	過去の全人的医療体験コースで訪問していた患者さんに再度お会いしてその後の経過を知るコース

●「まだ見ぬ力」を身につけられる医療者になるために

今回、このような実習を皆さんに提供した背景を記したいと思います。

地域で働く医療者には、地域特有のニーズを読み取り、制度を熟知しながら、医療を提供することが求められますが、地域や制度というのは時間と共に変わるので、求められる力や役割も変化します。例えば、私が医学生だった15年前には介護保険制度は走り出しで、今程多様な職種が一人の患者に関わるということはまれでしたし、ケアマネジャーという職業もありませんでした。しかし、今や一人の患者に異なる職種が関わる「他職種連携」はケアの基盤となっています。すると、他の職種は育ってきたプロ



▲家庭医外来見学の様子

セスや日常業務が異なるのだから、知識や価値観が異なるという知識や、他の職種から患者がどう見えているかは「自分は知らない」と謙虚になれる態度、そしてそうした知識と態度を元に、現場で実際に連携する際に、慎重な対話を行える技術が必須となってきます。こうした力は以前は今ほど重要だとは言われていませんでした。

こうした変化は今後も起こり続けるので、ただ大学で教わったことを現場で使うのではなく、現場で求められる新しい「力」に気づいて、それにあわせて自分を変えていく必要があります。そのための一つの方法が、今回実習で提供した、「自発的に目標を設定し、振り返り、チームで対話をする」というプロセスです。

私がいる浅井東診療所は、地域に密着した医療を実践しながら、同時に教育診療所として地域に密着して働ける人を育てることも大切にしています。これからも、まだ見ぬ時代に求められる力を身につけられる医療職を育てるために、現場とそこに関わる我々をありのままお見せして、現場の中で対話できるような場所をご用意しています。恐らくは滋賀県内の多くの診療所が同じように門戸を開いてくれているはずです。道を知りたい時、迷った時には是非現場の門を改めて叩き、目標・振り返り・対話を大切に学んでいって下さい。



▲講演の様子

■ 浅井東診療所・ほたるの薬局・特養ふくらでの「フィールド実習」の報告

浅井東診療所 所長
滋賀医科大学家庭医療学講座 非常勤講師

松井 善典



宿泊研修の2日目は浅井東診療所を中心としたフィールド実習を行いました。

まずはガイダンスを行い、フィールド実習の概要と実習中に気づいたことや考えたことのメモの重要性について説明しました。参加学生の皆さんは、実習中のリアルタイムの気づきや発見を残すことの大切さを感じてくれました。



▲体験を発表する学生

実習は浅井東診療所、ほたるの薬局、特養ふくらという長浜市の旧浅井町の地域のフィールドに出て、それぞれ家庭医療外来見学、診療所看護師実習、特養看護師実習、地域密着の薬局実習、訪問看護実習などと各施設や職種の日常の姿を見学・体験するというものです。

また地域住民インタビューや温泉実習（診療所の隣の入浴施設で住民インタビュー）といった地域密着のオリジナル実習も用意しました。

それぞれ「薬剤師さんが病院よりも近い距離感で仕事をしていた」「家庭医は患者さんと意見が違うと



▲地域密着の薬局実習

きも、まず患者さんの意見を聞いていた」「診療所の看護師さんが世間話をしているように見せて、うまく体調や今一番しんどいことを聞き出していた」など、地域での多様な職種の働き方を掴んでくれました。

最後のフィールド実習のまとめでは、小グループに分かれて「どんなことをし

て、どんなことを感じ、どんなことを明日から学びたいと思ったか」という話題でディスカッションを行いました。まとめでは、「仕事の中で楽しみを見つけると学びが進むこと」「傾聴することの実践は難しいこと」「浅井では地域同士の繋がりが温かいこと」などなど、現場ならではの学びと気づきに話題が広がりました。

地域で働いている様々な職種との出会い、地域で生きている住民との交流、そして一人ひとりが実習で出会ったこと、見てきたこと、感じたことを交流することで、わずかな時間ではありましたが、地域での医療やケアが少し立体となったという感想が聞かれました。

こういったフィールド実習は初の試みでしたが、参加学生さんの気づきや活発なディスカッションで実りの多いひと時となりました。地域を基盤にした医学教育の必要性が指摘されておりますが、その一つの型にもなったように感じました。



▲地域住民インタビュー



▲特養ふくらでの実習

訪問先の皆様からのメッセージ

研修を受け入れて

長浜赤十字病院 副院長兼放射線科部長 **楠井 隆**



▲湖北医療圏を一望

3月18日(水)に滋賀医科大学の学生さんたちをお迎えしました。朝から雨模様でしたが幸いにも天気も回復し、屋上ヘリポートに上がっていただきました。そこからは良い眺望が得られるだけでなく、湖北医療圏、近隣の病院などが一望できます。地域と共に歩む医療のあり方を感じていただけたのではないかと思います。

高齢化に関して色々なことが言われている中、滋賀県では

訪問先の皆様からのメッセージ

湖北がその先進地とも言えます。高齢化がより進行しているだけでなく、在宅看取りや施設での看取りは県内でも多く、いわゆる後送病院がないため病院と在宅が直結している、在宅医療に熱心な地域診療所の医師が多数いるなどの特色もあり、今後ますますニーズが高くなる高齢者医療を学ぶには格好の条件が揃っています。

講堂では赤十字の特色の一つである災害医療の紹介をしたほか、高齢化時代の医療においては多職種・多施設での連携が特に重要であることを話させていただきました。



▲整備された救急センター内の見学



▲屋上ヘリポートにて伊吹山をバックに

院内施設見学としては救急センターを中心に見ていただきました。センター内でCT、MRI、血管造影を含めた多くの検査や手術も行えるなど昨年までの整備で設備はかなり充実しました。原子力災害を視野に入れた救急洗浄室もあり、原発に近い地理的要素も感じていただけたのではないかと思います。

医療は地域と共にあるものだと思います。今回参加いただいた方の中から湖北や滋賀県に愛着を持ち、その中で活躍される方が育たれることを願ってやみません。

「人中心の医療」がここに

市立長浜病院 事務局長 柴田 博文



「ここで診てもらえて良かった。」「ここで働けて良かった。」そんな病院でありたいと常に思っています。このたび、市立長浜病院に見学研修においでいただき、如何でしたでしょうか。インターネットやパンフレット等で一定のイメージを抱いてお越しいただいたこととは思いますが、実際に病院に入り、患者さんや職員の様子、言葉のかけ方、雰囲気など紙や画面では表しきれない五感で感じていただくことができたのではないのでしょうか。

また、野田事業管理者からの病院経営に対する実践と熱い思いや、滋賀医卒業の医師や看護師からの入職動機や勤務状況、率直な感想やアドバイスなど、ほんの少しの時間ではありましたが参考にさせていただければ幸いです。

当院は、平成10年、財日本医療機能評価機構から「地域医療での基幹的、中心的役割を担い高次元に対応できる病院」として県下で初めて認定を受けました。17年には、地域がん診療連携拠点病院の指定を受け、長浜市と京都大学医学研究科とが0次予防健康づくり推進事業の協定を結び、翌年には県

訪問先の皆様からのメッセージ

内公立病院としては初めての健診センターの機能評価認定を受けるなど、0次予防健康づくり推進事業と共に市民の生活習慣病予防などの健康づくり推進への積極的な取り組みを行っています。

地域の高齢化が進む中であって病院の機能役割が問われています。当院の強みでもあります心臓血管、脳血管障害に対する確・迅速に対応できるように手術室・ICUの改修をはじめ、医療職（特に女性医師）の職場環境の改善等を図るべく施設の整備を「診療支援棟」として、今秋の完成をめざし建設工事を進めています。ぜひ、見学・実習にお越しください。お待ちしております。

地域医療を支えていただく貴重な人材である皆さんが、山紫水明、風光明媚で歴史文化豊かな滋賀県で、「ここで働いてよかった」と感じ、ご活躍されますことを心から祈念しております。



▲先輩医師や看護師の皆さんと

滋賀県で働く医師の更なる充実を図るため、県、滋賀医大、医師会、病院協会の御協力で設立された「滋賀県医師キャリアサポートセンター」の窓口をされている檜垣さんも研修に参加されました。

春の宿泊研修へ参加して

滋賀県医師キャリアサポートセンター 檜垣 奈緒



滋賀県医師キャリアサポートセンターにて相談窓口・事務を担当しております檜垣と申します。

今回の宿泊研修で大変有意義だった点は、参加学生が、患者さんや地域の方々と直接交流する機会を通して、医療に対する学生の意識の変化を感じとれたことです。これは、長浜市の医師不足の現状を知り、病院見学、また地域医療の現場では体験学習が参加学生にとって身になる時間となったからだと思います。

今回の宿泊研修が初参加でしたが、積極的に現地へ足を運び直接お話を聞くこと、見学することで初めて分かることが沢山あるのだと学びました。また学生には、この研修が地域医療の役割について学べるよい機会になっていると思います。

最後に、ご協力いただきました皆さま、この度は貴重な体験をありがとうございました。

宿泊研修に参加して(学生の声)

(注) 学年は H27.3 時点のものです。

滋賀医科大学 医学科2年生 坂本 珠梨

初めて宿泊研修に参加させていただきました。病院見学ではそれぞれの病院の特色や力を入れていることを知ることができました。また、勤務されている滋賀医大の先輩方から直接お話を聞くことができ、有意義な時間を過ごすことができました。市内を歩いたり、曳山博物館で豪華な山車を見たりする時間もあり、また長浜に行きたいと思いました。浅井東診療所では、外来の見学をさせていただきました。その後に振り返りの時間があり、他の学生と学んだことを共有したり、先生からコメントをいただいたりすることができ大変勉強になりました。充実した研修をありがとうございました。

滋賀医科大学 看護学科3年生 鳥原 菜那

私が宿泊研修に参加させていただくのは2回目となります。学生生活の中では中々御目に掛かれない市役所や病院関連の方々や地域医療に興味のある学生と交流することで、自分なりに病院での医療と地域医療を結びつけることができたと思います。どの見学も魅力的だったのですが、特に印象に残っているのが、地域密着型の薬剤師さんに同行させていただいたことです。他職種の業務を実際に見学させていただくことで、今後の地域医療における連携を具体的に想定する力が養われました。将来自身が地域医療に貢献できるようにさらに理解を深めていきたいと思います。この度は、このような機会を設けていただきまして誠にありがとうございました。

滋賀医科大学 医学科2年生 牧野 愛

お薬を混ぜたぷりんは

奥様のとびきりの魔法が溶かし込まれて
薬剤師の方と患者さんのお宅を訪問した時。旦那さんにお薬を飲んでもらうために工夫していることとして奥様が挙げられた。

雨粒が身体に当たる露天風呂

傘もささずに歩く人思う

長浜ホテルの露天風呂にて。雪であればもっと趣深かったかも。次の日の渡岸寺散策は雨降り、傘を携帯していなかった同級生は雨に濡れながら歩いていた。渡岸寺で十一面観音を拝観した後、お堂の外に出ると雨はあがっていた。

研修中にお世話になった皆様にこの場を借りてお礼申し上げます。



▲曳山博物館

滋賀医科大学 医学科2年生 力武 里菜

今回の研修で最も印象に残ったことは浅井東診療所での研修でした。私は診療所の看護師さんに付いて看護師の仕事を見学させていただきました。看護師は医師と最も近い職業なので今回看護師さんの仕事を知ることができて本当に良い経験ができたと思います。私は医学科なのでどうしても医師の仕事ばかりに目が行きがちですが、今回初めて看護師の視点に立って医療を見て看護師の仕事の重要さについて改めて実感しました。

研修中は主に問診を見学させていただきました。看護師さんは雑談を入れながらも患者さんの今一番しんどいことを上手に聞き出していってました。また測定したバイタルの結果から瞬時に異常な点を察知できる判断力に感動しました。

私は今回の研修で印象に残った言葉があります。それは「いつもと同じ、いつもと違うことの大切さ」という言葉です。これは患者さんをいつもしっかり見ているからこそわかることなのだと思います。浅井東診療所は患者さんとスタッフの距離がものすごく近く患者さんからの信頼が厚い所だと感じました。これは診療所のスタッフ全員が患者さんと真摯に向き合っているからこそ生まれた信頼関係なのだと思います。

研修全体で私は物事をいろいろな方向から立体視して全体像を見ることの重要さを教わりました。医師の視点だけでなく様々な視点をもって患者さんを診ることが求められるのではないかと思います。

滋賀医科大学 医学科2年生 関根 浩史

1日目の途中から参加させていただきました。浅井東診療所は全人的医療体験学習の患者さん訪問以来でしたが、今回も松井先生、宮地先生には大変お世話になりました。今回初めて里親合宿の中で実習形式の体験をさせていただき、他に参加した学生と共にそれぞれの体験の振り返りができ、みんなで体験を共有する機会をいただけて本当に良かったです。個人的には患者さんと久々の再会が果たせてベッドサイドでの会話以外に一緒に散歩する時間も持てて、これまで知らなかった患者さんの側面を見ることができて良かったです。またこのような実習や患者さんとの再会の機会を持ちたいと思いました。ありがとうございました。

宿泊研修に参加して(学生の声)

滋賀医科大学 看護学科3年生 藤野 美喜子

今回、初めて宿泊研修に参加させていただきました。長浜赤十字病院・市立長浜病院を見学させていただきましたが、市の担当者さまより長浜市の医療状況をご説明頂いた後だったので、それぞれの病院の果たす役割を考えながら見学する事ができました。

今回、特に印象に残ったのが、浅井東診療所でのフィールドワークです。私は『地域住民の方へのインタビュー』をさせていただきました。お話す事で、ご本人の歴史だけでなく地域での生活を垣間見る事ができました。地域医療の重要性を感じたので、今後の進路選択が広げられる貴重な経験になりました。またフィールドワーク終了後にシェア会が行われ、自分が経験した以外のフィールドワークの内容を共有できたのも良かったです。

行政・医療施設関係者の方との懇親会、長浜市観光などもあり、『長浜市で働くならば』と言うことが具体的にイメージできたと思います。このような貴重な体験をさせていただき、ありがとうございました。

滋賀医科大学 医学科2年生 北川 奈津子

今回の宿泊研修に参加し、長浜を初めて訪れることができました。1日目には曳山博物館に行かせていただき、長浜の伝統的なお祭りである曳山祭について知ることができました。2日目には浅井地区でフィールドワークを行いました。私は地域散策をする予定だったのですが、雨だったため浅井東診療所近くの温泉で地域の方にお話を聞かせていただきました。私の住んでいる所と比べると交通もそんなに発達していないし、住んでいる方は困っていらっしゃるのかな？と思っていましたが、ある方に困っていることについて尋ねると「困っていることはない」とおっしゃられたので驚きました。その方がおっしゃるには地域の仲がよく、近くに診療所もあって特に困るようなことはないとのことでした。このお話を聞いて、今までは便利など＝住みやすいところと思っていましたが、必ずしもそうではなく、人同士の繋がりの方が大切なの다는ことを知ることができました。

滋賀医科大学 看護学科3年生 奥山 詩雨

湖北長浜市における医療は、在宅看取り率が高く現に東京都などの2025年問題に向けた全国的先進事例であると学ぶことができ、私は大変印象深いと感じた。しかしながら現在長浜市においても医師が偏在しているという事実は、言い換えれば現地域での訪問看護の取り組みは同時に十分な確立がなされていない現状があるのではないかとということも考えられた。

各々の地域における医療とは、自主性と積極性を抱く医療者の一人一人の原動によって地域に初めて根付くことができるのだと私は思う。そしてその地域医療の質は全体として維持・向上することを再確認することが重要だと学ぶことができた。

また今回、個人の希望として私自身は訪問看護サービスに同行させていただく機会があった。やはり長浜市の地域性に着目すると、冬の豪雪地帯であることから、人びとの生活や暮らしの基盤となりうる農作の機会は、つまり1日の活動量は減ることがやむをえない気候的環境であると学ぶことができた。運動量の減少につながることは、したがって高齢の方にとってはその1年ずつの歳月の積み重ねに伴い身体的・心理的・社会的喪失のリスクが増すことも考えることができた。私は、奥深い看護観を身に付ける姿勢を学ぶことができ、再び新たな在宅看護の視野を広げることができた。大変感謝している。

私たちは故郷・滋賀を愛する医療者の一員として、地域に出ていく資源力であり続けることの大切さを考える貴重な場をいただくことができたと思う。今後の学生生活の中では、自分自身の将来を見据えた幅広い医療現場での看護の必要性を、ひとつひとつ根拠に基づき再認識することを大切に過ごしていきたいと思う。

滋賀医科大学 医学科4年生 高塚 淑子

1年生の時から参加させていただき、今回で琵琶湖をほぼ一周しました。それぞれの地域の医療や名所に案内していただき、滋賀のイメージを具体化できるようになったような気がします。今回訪問した浅井東診療所とフィールドワークで訪問した特別養護老人ホームふくらは2年生の夏に実習させていただいた施設でもありました。同じ施設の訪問もその間に専門科目を学んだことで、見る視点が変化していることに気が付きました。またフィールドワークでは浅井東診療所所長の松井先生より実習中と実習後の振り返りをおこなうことの重要性を学びました。5年生から始まる臨床実習で実践していきたいと思います。

研修にご協力いただきました、皆様、ありがとうございました。



▲北国街道

▲長浜フィギュアミュージアムの前で

社会福祉法人恩賜財団 済生会滋賀県病院

院長メッセージ

当院は、琵琶湖の南東に位置し、栗東市、草津市、守山市、野洲市、湖南市を含むいわゆる湖南医療圏域約31万人の人口に対し三次救急医療を担う救命救急センターとして「救急車は全て受け入れ、断らない」を合言葉に、年間約6千台の救急車を受け入れています。また平成23年9月から県内で初めて病院単独でドクターカーの運用を始めました。更に今年4月28日からは近畿で6機目のドクターヘリが配備され、滋賀県・京都府南部の急性期医療の中核を担っています。



院長 三木恒治

また、がん、脳卒中、循環器疾患などに対する高度な技術と専門知識を備えたスタッフが、患者さん一人ひとりの病態に合わせ、より効果的で身体への負担が少ない治療を行っています。

一方、地域医療支援病院として、地域の保健・医療・福祉を、地域の専門的機能を持つ医療機関、関連施設である特別養護老人ホーム、介護老人保健施設、訪問看護ステーションなどとチーム医療を構築することで地域完結型医療を総合的に推進しています。

本院はプライマリーケアの習得を目指す研修医にとって、最適な研修環境を完備し、熱意のある研修希望者を募集しています。ドクターカー、ドクターヘリにも搭乗し、厳しい中にも実りの多い研修生活をエンジョイしていただきたいと思います。



病院概要

所在地：滋賀県栗東市大橋2丁目4番1号
TEL：077-552-1221
FAX：077-553-8259
URL：<http://www.saiseikai-shiga.jp/>
標榜科：26科
三次救命救急指定病院、滋賀県がん診療連携支援病院
地域医療支援病院、災害拠点病院 等

臨床研修責任者からのメッセージ

臨床研修責任者 増山 守



当院は救急救命センターを併設しており、年間3万件の救急に対応する救命救急センターを核にプライマリーケア研修に最適な症例を初療時から豊富に経験できます。できる限り経験を積ませたいという指導医の熱意、そして研修医諸君のやる気の総合的な結果、素晴らしい研修環境が確立されていると思います。

当院における研修は、特に救急当直を中心とした研修に関しては確かにハードですが、研修医が2年の間に身に付けておくべきプライマリーをしっかりと高いレベルで身に付けたい、そのためには多少の苦勞はいとわれない、といった研修医の諸君にはうってつけの研修病院であると考えています。

救急以外でもCVTトレーナーを使ったOSCEや、採血などいくつかの講習会が必修となっていますし今年度からスキルラボが研修医室のすぐ隣に新設され、少しの空き時間であってもトレーニングが行えるようになりました。また11か月の選択科目の中には他病院にはない超音波検査習得を含む画像診断コースや病理を含めた検査診断コース、また離島研修などがあり、バリエーションも豊富です。

当院の研修では、この患者さんに必要な検査は何か？そして診断と鑑別診断は何か？この患者さんは帰してよいのか？どうすれば患者さんに安心して満足していただけるか、どの方針がこの患者さんに合うかなど、コミュニケーション法からリスクマネジメント、臨床倫理、医療経済まで視野に入れた臨臨床的・社会的問題解決能力を養うことができます。

当院の臨床研修を経験すれば一流の臨床医、チーム医療の優れたリーダーとしての基礎を身に付けることができるでしょう。2年間充実した研修生活を送りたいと考えている諸君、当院には君たちが求めるものが必ずあると思いますので、是非一緒にがんばりましょう。

研修医メッセージ

2年目研修医 西本 雅和

2年目の研修医として、当院での研修を1年間終えて実感したことは、経験を通して学ぶことは他のなにものにも代えがたい、大切なことだということです。本を読んだり、先輩医師から教えてもらったり、シミュレーターで練習することでも、知識や技術を得て、高めていくことはできます。しかし、自ら考え、判断し、その知識や技術を実践する機会がなければ、なかなかそれらを本当に自分のものとして使いこなすことはできません。

当院での研修は日常業務はもちろん、救急の日直・当直でも、できること、挑戦したいことを「できるところまで」、挑戦させてもらえる環境が整っています。症例数も多く、どんどん挑戦してレベルアップしていくことができます。もちろん、やりっぱなしではなく、臨床現場やカンファレンスを通して先輩方からフィードバックしてもらえ、また、様々な実践に則したアドバイスをもらえます。

切磋琢磨できる同期の研修医が多すぎない程度にいるのも魅力的です。お互いに助け合い、高め合うことができるからです。

研修医になったらまずはプライマリーな医療をしっかりと学びたい、と思っている方はたくさんいらっしゃると思います。その目的を果たすための「非常にちょうどいい」環境が当院には整っていると言えるでしょう。まずは一度見に来てください。そうすれば当院の魅力がより鮮明につたえられると思います。



看護部メッセージ

看護部長 松並 睦美

済生会滋賀県病院の看護部は、「安全で質の高い医療の提供」という病院理念に基づき、「優しさ」「思いやり」「信頼」を看護部方針に掲げ看護の実践に取り組んでいます。当院の継続教育は、「自ら学び・育て合い・共に成長する」ことを教育理念とし、時代のニーズにあった質の高い看護を提供していけるように、個々の看護師の成長・発達に応じたキャリア開発を支援、育成していくことです。特に、新人教育については、看護職としての第一歩を不安なく踏み出せるように、配属部署全体で新人をサポートしプリセプターによる精神的支援を実践しています。看護の基本は、日常生活援助が一人で実践できるようになることです。専門的な知識、技術を習得できるように多重課題等のシミュレーション学習により経験をつむOJTを重要視しています。一人前の看護師になれるように共に温かく見守ってくれる先輩と、共にがんばれる仲間がいることを信じて、慈しみのこころ通う看護を私たちと一緒に実践していきましょう。そして、済生会の紋章である「なでしこ」にちなみ、なでしこナースへの道にチャレンジしてみてください。



看護師を大切に
育てる教育体系が
組まれていますね!



長く働くのなら
しっかりとした目標を
もたなくちゃ!

長浜市立湖北病院

《湖北の魅力》

湖北・長浜には、豊かな自然と（戦国時代を彩った）歴史があります。姉川の戦いの後、1573年小谷城陥落。浅井長政攻めの功で湖北の地を拝領した羽柴秀吉は、信長の一字から当地を長浜と改名、初代長浜城主となります。本能寺の変の後、信長の後継者を巡りともに家



賤ヶ岳を背景に

臣であった秀吉と柴田勝家が対立、ここ湖北の地で大合戦を繰り広げました（1583年賤ヶ岳の戦い）。これに勝利した秀吉はその後「天下びと」となるのです。

その賤ヶ岳の麓、軍師官兵衛・黒田家ゆかりの長浜市木之本町黒田に湖北病院があります。大正4年伊香郡愛郷会伊香病院として開院した当院の歴史はとても古く、本年創立100周年を迎え、秋に記念式典を予定しています。現在の病院の主力事業の一つである人工透析は昭和49年に開始されました（当初2床→現在30床）。昭和50年に“へき地中核病院（へき地医療拠点病院）”の指定を受け、同58年に現在の地に新築移転、総病床220床の「伊香郡病院組合立湖北総合病院」として再出発しました。当時開設された無医地区での出張診療所は現在も市内3地区で診療しています。平成元年に病院併設型老人保健施設を開所、平成7年に福祉センター事業を開設、平成12年に訪問看護ステーションを設置するなど、湖北地域の医療・福祉・介護の中核を担ってきました。平成22年長浜市との市町合併に伴い、『長浜市立湖北病院』と名称変更し現在に至ります。

当地域でも医師不足は深刻で、看護師不足とも相まって、当院も診療規模を徐々に縮小せざるを得なくなっています。地域住民の皆さまの病院に対する温かいご理解と医師会先生方や市内の2つの総合病院、福祉・介護関係職種の皆様との連携・協力を頂いて、何とか日々の診療を乗り切っている？というのが現状ですが、地域の中小病院だからこそその魅力もいっぱい、職員は毎日楽しく仕事をしています。

病床数：153床（一般病棟：48床、地域包括ケア病棟：48床、医療療養病棟：57床）

診療科目：18科（内科、外科、整形外科、皮膚科、泌尿器科、小児科、眼科、歯科口腔外科、耳鼻咽喉科、消化器内科、神経内科、呼吸器内科、循環器内科、婦人科、放射線科、リハビリテーション科、麻酔科、精神科）

常勤医師：15名（内科6、外科1、泌尿器科（透析室）4、眼科2、小児科1、歯科口腔外科1）うち3名が滋賀医科大学卒業

〈指定病院等〉 ・へき地医療拠点病院 ・救急告示病院 ・地域包括医療・ケア認定施設
 〈併設施設〉 ・介護老人保健施設84床 ・訪問看護ステーション

《まあ、いっぺん来てみゃんせ》 ～湖北地域の方言で「是非一度おいで下さい」の意～

当院は臨床研修指定病院ではありませんが、研修協力病院として、診療局（医師）、看護局（看護師）はじめ病院全体で医療人の育成に取り組んでいます。初期研修医の必修プログラムである“地域医療”研修、医学生の臨床実習、長浜市にある県立看護専門学校の看護学生の実習などの受入れ・指導を行っています。滋賀医科大学6年生の学外臨床実習では、内科系・外科系（主に泌尿器科です）を問わず、外来、入院、手術、内視鏡、心エコー、透析室、出張診療／訪問看護、地域保健（乳幼児健診・学校健診）、介護・療養施設、さらには当直実習も……学生の希望に応じて幅広く研修できるよう工夫しています。「まあ、いっぺん来てみゃんせ」。滋賀県・湖北の風情と湖北病院職員の人情に魅せられた医学生・看護学生の皆さんと、いつの日か一緒に仕事できる日を楽しみにしています。



新人救急研修



病棟にて

文：東野 克巳（滋賀医科大学里親学生支援室里親、滋賀医療人育成協力機構正会員、滋賀医科大学臨床・インストラクター、臨床研修指導医、滋賀医科大学非常勤講師（小児科））

～看護局から～

『看護学生のみなさまへ』

当院は、当院ならではの新人教育を行っています。『一刻一秒を争う看護もあれば、ゆっくりじっくり寄り添う看護もある。私たちは、そんな白衣の戦士（天使？）を目指しています』をコンセプトに、地域に根ざした病院ならではの患者さんとの密な関わりを目指しています。新人研修として、シュミレータを使った集合研修、インターネットを使ったeラーニング、5週間のローテーション研修を行い、実地指導者が一人ひとりの成長度に合わせて最後まで寄り添います。その結果、《30年以上新人離職率0%》を維持しています。そして、病棟全体で新人看護師のスキルの向上と心のケアを大切にしています。

『看護局の活動』

地域住民の健康維持と当院への受診に理解を深めていただくため『看護宅配』として出前講座を実施しています。住民が求める講演内容を準備して、機材を積み込み巡回します。出前先での住民との交流を大切にしています。

また、毎年、希望者を募り、『海外視察研修』に参加しています。オーストラリアやハワイの医療事情の見学と他病院の方々との交流などを行うことで、看護師の医療・看護に対する視野の拡大に繋がっています。当院は、一般急性期病棟から地域包括ケア病棟・療養病棟・訪問看護ステーション・地域連携室・老人保健施設など地域医療に必要な様々な部署があります。看護局では、この活動に共感し、共に働いてくださる皆さんのようなニューリーダーを求めています。一度、見学にお越しください。いつでも歓迎いたします。



先輩Dr. メッセージ

内科医員 辻本 健児

私は、平成25年3月に滋賀医科大学を卒業しました。長浜赤十字病院での初期研修を経て、本年4月から湖北病院内科の一員に加えて頂きました。週1回ずつ、病院での外来と出張診療をさせていただき、また心エコーと消化器内視鏡を少しずつ教えて頂いているところです。プライマリ・ケアの種々雑多な疾患から、敗血症、DICなどの重症、あるいは癌ターミナルの疼痛コントロールまで、あらゆる分野の症例を担当することができ、毎日新たな学びがあります。学生の頃、離島やへき地の病院・診療所をいろいろ見学させて頂く中で、自分もいずれ携わりたいと思っていた地域医療の世界に、今、浸かっています。病院では、“看取り”を含めた在宅診療部門の立ち上げが計画されており、私もチームの一員に加わる予定です。こじんまりとした病院で、スタッフ同士の距離が近く、風通しの良い働きやすい職場風土があります。見学ご希望の方は大歓迎です。是非一度お越しください。



出張診療所にて



内視鏡研修会

先輩Dr. メッセージ

外科部長 佐藤 浩一郎

皆様、はじめまして。長浜市立湖北病院の佐藤と申します。滋賀医科大学の18期生です。外科では外傷などのプライマリーケアから消化器外科、乳腺一般外科を初めとした専門的医療まで幅広い診療を行っています。長浜市の乳癌検診も月2回実施しています。湖北地域メディカルコントロール専門部会の委員としてメディカルコントロールを行っています。病院の中の雰囲気ですが、医師はお互い仲が良く気軽に相談ができる環境です。看護師、放射線技師、管理栄養士、理学療法士と協力しながら周術期管理を適切に行っています。興味のある医学生、研修医の方々に是非一度勉強に来ていただきたいです。

先輩Dr. メッセージ

内科部長 清水 真也

私は平成7年に滋賀医科大学を卒業しました（15期生）。卒業後旧第3内科へ入局し初期研修を行い、その後市中病院勤務や大学院での研究生活を経て、平成26年7月から湖北病院に勤務しています。湖北病院は（滋賀県）湖北地域でも最北端に位置する病院で、主に地域の高齢者の診療を行っています。日頃感じることは、高齢者では誤嚥の有無やADLなど病気以外の部分が大いことです。病気以外のところまで十分にチェックすることは困難なため、看護師や理学療法士などと情報交換を行い、一人の患者をトータルに診る必要があります。また、家庭の状況を考慮しないと退院させることもできません。超高齢化社会を迎えるにあたって、このような問題は大都市の中核病院でも増えてくると思います。地方の高齢者の診療に興味がありましたら、是非一度見学に来て下さい。お待ちしております。



クリスマスコンサート



春の湖北路

長浜市立湖北病院

〒529-0493 滋賀県長浜市木之本町黒田1221
TEL：0749-82-3315 FAX：0749-82-4877
<http://www.ikbk.jp/>

社会福祉法人 グロー (GLOW)
～生きることが光りになる～

特別養護老人ホームふくら 金森 暢子



〈看護学生の頃〉

そもそも、なぜ看護師になったのか？ すみません。ステキなエピソードがありません。確実に自立したいという気持ちで、教師か看護師か迷い結局看護師の道に進みました。全寮制の暮らしは楽しかったです。みんな同じ釜の飯を食べ（早く食堂へ行かないと大鉢のおかずがなくなるので急いで行く）みんな同じお風呂で裸のつきあいをして（寒い日は授業や実習が終わって入るお風呂が至福の時でした）みんなで1台のテレビを見て（一人で見るとはるかに盛り上がる）4人部屋でプライバシーはほぼなくても平気で、ワイワイと過ごしました。今思い返しても吹き出すことがたくさんあり、かけがえのない時間として私の中に刻まれています。この生活の中で図太い神経を手に入れ、人を深く知ることを学び、それが、今のへこたれず、人との出会いに興味深々な私につながっているようです。



▲大津赤十字看護専門学校卒業式

あの頃、朝の点呼時に規則として暗唱していたナイチンゲール誓詞「我はここに集いたる人々の前で厳かに神に誓わん～」今声に出してみるとすごい重みです。

〈病院看護師の頃〉

2つの病院で循環器、外科、救急病棟に勤めました。循環器病棟にはトータル10年以上お世話になり、ここで関わるが多かった「高齢者」が好きになりました。若気の至りか、医療・看護の第一線にいたいという気持ちもあり（今思うと第一線ってなんだ？）、忙しいこと自体を楽しんでいました。

たくさんの患者さんとの出会いや別れがありました。奇跡のような回復も、悲しい最期も、感じる余裕もない程の重症患者さんの処置に追われる怒涛の時間もありました。病院時代は知識や技術を身に付け、経験を積み上げながら、この疾患のこの患者さんを理解できた達成感や、チームで協力して看護することの楽しさとやりがいを感じる日々でした。

〈特別養護老人ホーム看護師の現在〉

今なぜ特養看護師なのか？ これまた全くステキなエピソードがありません。関節が腫れて痛むあの病気になったことと、偶然ふくらで働く先輩に買い物途中に出会ったことで、特養ってどんな所？ 介護保険？ 何も知らないまま特養看護師になりました。第一線から引退



▲「ふくら」で松井先生と

のような寂しさも感じていましたが、働き出してみると特養の看護がおもしろい。この春で10年目になりましたが、まだまだ奥が深い。

奥が深い1. 利用者さんの「いつも」を守る

特養は生活の場です。そして「どこがどう具合が悪い」と言えない利用者さんがたくさんおられます。朝、おはようと声をかけて、おはようと返ってくる人、言葉は出ないが笑顔を返してくれる人、開眼して目が合う人、一人ひとりの朝のいつもがあります。動き方、食べ方や顔色や目力など、いつもと同じか違うのか。いつもと違う時はその人の中で何が起きているのか、嘱託医の松井・宮地先生の協力を得ながら、「いつも」を取り戻して特養での生活が続けられるようにします。「いつも」を守るのは簡単そうで奥が深いと日々感じています。



▲尊敬する北岡理事長と

奥が深い2. 人生の集大成を支える

特養の利用者さんの自然な経過として、「いつも」のレベルがだんだん下がって看取りになります。ふくらでは看取りは人生の集大成と捉え、御家族はもちろん多職種が連携して、安楽だけでなく豊かな時間を過ごしてもらえよう踏ん張ります。看取りケアも松井・宮地先生のバックアップの元、好物を少し楽しんだり、大切な着物や洋服を着て写真を撮ったり、家に帰ったり、一緒に歌ったり……。そんな中で利用者さんの思いがけない反応に、うれしくて鳥肌がたつようなことが何度もあります。それを御家族やスタッフと共有できるともっとうれしくなります。亡くなられてそのきれいな顔と御家族のありがとうの言葉はふくらスタッフの大きな達成感となり、若い支援員が大きく成長するのを何度も目の当たりにしてきました。いつも「最期まで看させてくれてありがとう」と感じています。

奥が深い3. 社会福祉法人グロー

ふくらの属する社会福祉法人グロー（北岡賢剛理事長）は高齢福祉だけでも多岐に渡りますが、障害福祉やアールブリュット等刺激がいっぱいで、都度私はふくらでどう頑張るのかを考えさせられます。



▲ふくにゃん
(イメージキャラクター)

〈学生さんへのメッセージ〉

私はなんとなく看護師になって今特養で働いています。でもいつも楽しく働いています。ステキな仲間と楽しく働き続けられるのはありがたいことだと思っています。医療や福祉は人と出会い愛をもって向き合うことで、自分も成長できるすばらしい職業だと思います。しんどいこともあります、しんどさやりがいとはワンセットです。頑張ってください。頑張れる秘訣は仕事の中に楽しさを見つけること、感動できることだと私は思っています。



▲ふくらの仲間

医学生・看護学生のみなさんへ

滋賀県内の病院から寄せられた実習情報・病院見学・インターンシップなどの開催情報です。ぜひご活用ください。

ホームページ<http://www.shiga-iryo-ikusei.jp/gakusei/index.htm>でも最新情報をご確認いただけます。

◆ 医学生のための「病院研修・実習・見学」

病院名・機関名					
	対象者 学年等	実施内容	日 程 開催期間	申込時期	連絡先
市立長浜病院					
	全学年	病院見学 各診療科見学、救急外来見学、 院内案内等	応相談(半日～1週 間程度)	随時受付・ 随時実施	総務課 0749-68-2324
近江八幡市立総合医療センター http://www.kenkou1.com/					
	第4学年～ 第6学年	病院見学 (各診療科見学等)	随時(応相談)	随時	総務課 吉田 0748-33-3151
社会医療法人誠光会 草津総合病院 http://www.kusatsu-gh.or.jp/					
	全学年	病院見学、各診療科見学	随時(応相談) 休 み時の一週間程度 の長期見学も可	随時	臨床研修事務局 077-563-8866(代) minai@kusatsu-gh.or.jp
医療法人社団 弓削メディカルクリニック 滋賀家庭医療学センター http://yugemed.com/					
	全学年	外来・在宅医療・通所リハビリ テーション他	随時(平日)	随時	総務部 西尾 yugemed@gmail.com
滋賀県立精神医療センター http://www.med.shiga-pref.jp/pmc/					
	第6学年	1回につき学生1人。精神科医 の診療に3日間ずっとついてもら います。その間に協議も。	随時、相談 3日間連続を、年3 回程度(計3人)	随時	柴崎(診療局長) 077-567-5001 shibasaki-morikazu@ pref.shiga.lg.jp
滋賀県立小児保健医療センター http://www.pref.shiga.lg.jp/mccs/					
	第5・6学年	外来診療、処置、手術等の見学	随時、応相談	随時	事務局 077-582-6200(代) div-manage@mccs. med.shiga-pref.jp

病院名・機関名					
	対象者 学年等	実施内容	日 程 開催期間	申込時期	連絡先
大津市民病院 http://www.municipal-hospital.otsu.shiga.jp/					
	第4、5学年	研修医のエスコートのもとに病院研修を体験してもらう	平成27年8月3日～8月28日(予定) 研修日数は1～5日とし、複数の週にまたがらないこと (詳細は当院ホームページをご覧ください)	ホームページ参照のこと	病院総務課 臨床研修担当 077-526-8516(直通)
彦根市立病院 http://www.municipal-hp.hikone.shiga.jp/					
	全学年	診療科見学、施設見学等	随時(平日)	随時	職員課 0749-22-6050
医療法人 仁生会 甲南病院 http://www.kohnan-shiga.or.jp					
	全学年	病院見学	随時	随時	人事課 0748-86-5534 personnel@kohnan-shiga.or.jp
一般社団法人 水口病院 http://www.minakuchi-hp.or.jp/					
	全学年	病院及び関連施設見学 (希望の見学場所があれば対応します。)	応相談・随時	随時受付・随時実施	事務長 崎山明生 0748-62-1212(代表)
滋賀県立成人病センター http://www.pref.shiga.lg.jp/e/seijin/					
	全学年	病院見学	随時	随時	総務課 077-582-8033(直通) nb01105@pref.shiga.lg.jp
公益財団法人近江兄弟社 ヴォーリス記念病院 http://www.vories.or.jp/					
	全学年	病院見学	随時	随時	事務長 澤谷久枝 0748-32-5211
長浜赤十字病院 http://www.nagahama.jrc.or.jp/					
	全学年	病院見学 ・各診療科を希望に応じて見学。救急科部の当直も見学可。 ・交通費及び宿泊費の助成あり。	・随時 ・秋と春に病院説明会を開催	随時	経営企画課 0749-63-2111(代) resident@nagahama.jrc.or.jp
甲賀市立信楽中央病院 http://www.city.koka.lg.jp/sch/					
	全学年	診療見学・出張診療・訪問診療	随時(6月～11月)	随時	中島恭二 0748-82-0249
済生会滋賀県病院 http://www.saiseikai-shiga.jp/					
	第5・6学年	希望科の外来診療、処置、手術等、ご要望をお伺いして調整いたします。また、当直や研修医のモーニングカンファレンスもご希望があれば見学いただけます。	見学につきましては、随時受け付けております。	見学希望日の概ね2週間前	総務課 臨床研修担当 小林 077-552-1221 soumu@saiseikai-shiga.jp

◆ 看護学生のための「病院研修・実習・見学」

病院名・機関名					
対象者 学年等	実施内容	日 程 開催期間	申込時期	連絡先	
独立行政法人 国立病院機構 紫香楽病院 http://nho-shigaraki.jp					
全学年	①病院見学 (看護課紹介、病棟見学) ②インターンシップ (希望病棟の看護体験)	①随時 (土、日対応可) ②随時(平日)	随時	庶務班長 土持 0748-83-0101 h-tsuchimochi@ subsigaraki1.hosp. go.jp	
市立長浜病院					
全学年	インターンシップ 病棟見学実習、 介護技術見学、 先輩看護師との座談会	平成27年7月27日(月) ～8月28日(金) * 上記以外の日程 にも対応		看護科長室 0749-68-2300 (内線2222)	
	病院見学&説明会 看護師募集について、先輩看 護師の話など	平成27年5月3日(日)、 6月27日(土)、7月31 日(金)	随時		
近江八幡市立総合医療センター http://www.kenkou1.com/					
2016年4月 に助産師・看 護 師として 就職希望者	病院見学・インターンシップ	随時(応相談) ホームページにて 案内	随時	総務課 吉田 0748-33-3151	
社会医療法人誠光会 草津総合病院 http://www.kusatsu-gh.or.jp/					
全学年	病院見学、インターンシップ	随時(応相談)	随時	看護部 077-516-2489(直通) kango@kusatsu-gh.or.jp	
訪問看護ステーションゆげ http://yugemed.com/					
全学年	訪問看護・他在宅療養を支える 様々なサービスについて	随時 (平日の2～3日間)	随時	総務部 西尾 yugemed@gmail.com	
医療法人社団阿星会 甲西リハビリ病院 http://www.kousei-rh-hp.or.jp/					
全学年	病院見学	随時 応相談	随時	総務課 飯田 0748-72-2881 info@kousei-rh-hp.or.jp	
滋賀県立精神医療センター http://www.med.shiga-pref.jp/pmc/					
①全学年 ②2～4年生 ③3～4年生	①病院見学 ②就職説明会 ③インターンシップ	①随時 ②6月頃 ③7～9月末	①随時 ②前日まで ③随時	077-567-5001 白崎(看護部副部長)	
滋賀県立小児保健医療センター http://www.pref.shiga.lg.jp/mccs/					
大学生3・4 年生、専門 学校生2・3 年生	病院見学・説明会 インターンシップ	随時(ホームペー ジで案内) 応相談	随時(ホームペー ジで案内)	看護部 077-582-6200(代) div-nur@mccs.med. shiga-pref.jp	
大津市民病院 http://www.municipal-hospital.otsu.shiga.jp/					
全学年	病院看護局紹介、希望部署見学、 先輩看護師の話など	平成27年7月21日 ～7月31日 13:30～16:30	随時	看護局 教育担当 077-522-4607 (内線 6140)	

病院名・機関名					
	対象者 学年等	実施内容	日 程 開催期間	申込時期	連絡先
彦根市立病院 http://www.municipal-hp.hikone.shiga.jp/					
	全学年	病院看護部紹介、施設見学、 新人教育紹介	随時（平日）	随時	看護部 0749-22-6050
医療法人 仁生会 甲南病院 http://www.kohnan-shiga.or.jp					
	全学年	病院見学（施設見学） 看護部紹介 新人教育紹介	随時	随時	人事課 0748-86-5534 personnel@kohnan-shiga.or.jp
一般社団法人 水口病院 http://www.minakuchi-hp.or.jp/					
	全学年	病院及び関連施設見学 （希望の見学場所があれば対応 します。）	応相談・随時	随時受付・ 随時実施	看護部長 <small>よなしろ</small> 與那城隆幸 0748-62-1212(代表)
滋賀県立成人病センター http://www.pref.shiga.lg.jp/e/seijin/					
	大学4年生、 専門学校3 年生	インターンシップ 病院見学	平成27年7月下旬 ～8日（土日祝を 除く）	平成27年6月頃	看護部 横井正子 077-582-5031 nb01103@pref. shiga.lg.jp
公益財団法人近江兄弟社 ヴォーリス記念病院 http://www.vories.or.jp/					
	全学年	病院見学（看護部紹介）	随時	随時	看護部長 岡田幸子 0748-32-5211
長浜赤十字病院 http://www.nagahama.jrc.or.jp/					
	3～4学年	①インターンシップ ②病院説明会	①平成27年3月2 日～平成27年3 月27日 平成27年7月1 日～平成27年9 月30日 ②平成27年7月4 日 平成27年7月25 日	①は希望日の前月 15日まで ②は事前	看護部 0749-63-2111(代) nurse@nagahama.jrc. or.jp
済生会滋賀県病院 http://www.saiseikai-shiga.jp/					
	全学年	①病院見学、募集要綱説明 ②インターンシップ （希望の部署での看護体験） 先輩看護師との昼食会	①随時 ②3月・6月	※開催日時につい ては、病院ホー ムページに随時 掲載します	看護部 事務 山中 077-552-1221 kango@saiseikai-shiga. jp
湖東記念病院 http://www.koto-hp.jp/					
	全学年	病院見学 （看護部紹介、施設見学）	通年、随時	随時	看護部 0749-45-5000(代)



～日本史の表舞台になった長浜市旧浅井町～

東浅井郡浅井町が平成18年2月に長浜市と合併して来春で10年になります。旧浅井町は長浜の中心市街の北東部に位置し、姉川と草野川が形成する流域平野が広がる緑豊かな田園地帯です。

地域の人々は自然に恵まれ、歴史と文化を大切にし、大地に根付いて生活を営んでいます。

ここ一帯は戦国時代に日本史の表舞台となりました。天下統一を狙う織田信長とそれを阻止しようとする浅井・朝倉連合軍が戦った姉川古戦場と浅井氏の居城、小谷城跡がその双璧です。

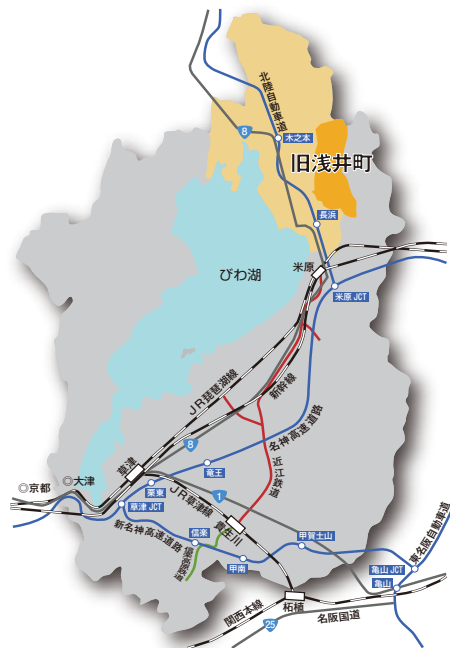
スケッチした場所は元亀元年（1570）6月28日早朝より両軍合せて五万余が激突した地、野村町と三田町の境界の姉川の河川敷です。スケッチ中、ふとどこからか兵士たちの雄叫びが聞こえて来そうでした。

この戦いに破れた浅井長政は、北西二里（約7キロ）にある小谷城に敗走します。3年後、堅牢な山城の小谷城も攻め込まれ、ついに浅井氏は滅亡します。信長の妹のお市の方は夫、長政が自刃した後、幼い三人の娘を連れて生き延びます。秀吉の側室、淀君となる茶々、京極高次に嫁ぐお初、そして徳川二代将軍秀忠の正室で三代将軍家光の母となるお江の三姉妹の数奇な運命はNHKの大河ドラマでも県民の注目を集めました。

小谷城のふもとの須賀谷温泉は、戦国の秘湯と呼ばれ、長政やお市の方も利用したと言い伝えもあり、週末には家族連れや小グループの宿泊者で賑わっています。

浅井地域には7ヶ所の医療機関があります。診療所と医院が各2ヶ所、歯科診療所と2ヶ所の歯科医院です。スケッチで描いたのは、野瀬町の草野川畔にある「浅井東診療所」です。人口減少傾向の湖北地方の中でも旧浅井町とりわけ上草野地区は少子高齢化が顕著です。小学校や農協支所が統合で消えていく中、地域住民にとっては大切な存在です。昨年10月に経営母体を移管し、名称も地域にかつて永年存在した診療所の名前を引き継ぎ、再出発しました。地域住民の健康を支え、地域医療分野の実践研究の牽引役として存在感を深めてほしいものです。

文：滋賀医科大学医学科後援会発足時 後援会長
（平成15、16年度）
／長浜市野瀬町在住 松井善和



姉川古戦場より伊吹山を望む



健康パークにある浅井東診療所

滋賀医科大学医学科卒業生の卒後動向

2015年3月に卒業した医学生は進路をどのように決めたのか

滋賀医療人育成協力機構理事
滋賀医科大学里親学生支援室長

埤田 和史

1. はじめに

滋賀医大医学科では今春104人の学生が卒業しました。2004年以降、学生たちが日本中の大学病院や研修病院の中から卒後の進路を自由に選択できるようになったので、医学部卒業生の研修先の選択動向が、地域の医師数の動向に大きく影響するようになりました。研修病院にとっては、初期研修医が増えることが病院の医師確保に繋がります。大学病院にとっても、専門医療の担い手や研究者の育成に関わります。滋賀県内には、滋賀医科大学附属病院をはじめ、12の卒後研修受け入れ施設があり、それぞれ特色のある研修プログラムを備えています。医師不足問題を抱える本県にとっては、大学を卒業した新人医師の動向は大いに気になるところです。また、現在、大学で学ぶ医学生にとっても、先輩達の卒後の進路やその選択理由は気になります。

そこで、滋賀医療人育成協力機構は卒業生の協力を得て、2013年から、毎年卒業生の動向を調査しています。2015年3月に卒業した医学生の動向を報告します。

2. 結果の概要

2-1) 研修先は

大学病院を選んだ人が39人、研修病院は45人でした。研修先を大学病院にするのか研修病院にするのか、男女によって選択の傾向が異なり、男性は6対4で研修病院、女性は逆に大学病院を選択していました。研修施設の所在地をみると、大学病院を含めて県内で初期研修をする人は35人(41.7%)、県外が49人(58.3%)で、昨年の46.5%に比べると県内施設を選択した比率がわずかに下がりました。大学病院を研修先を選んだ39人のうち、県内は27人(69.2%)、県外は12人(30.8%)、研修施設を選んだ45人のうち、県内は8人(17.8%)、県外は37人(82.2%)でした。

2-2) 卒後の研修施設を選択する時に、重視した事柄

重視した事柄として回答の多かった項目を表に示しました。表に示さなかった項目には「施設の名声」「研究環境」「家庭の事情」「保育所等女性の支援制度」などがあります。

過去の調査と同様に、研修先を決めるのに重視していたのは「研修プログラム」、「施設の所在地」と「スタッフの雰囲気」でしたが、今年は「施設の所在地」の重みが増していました。今年は4.8%が「保育所等女性の支援制度」をあげていました。

2-3) 希望する専門科は

将来、自分が専門としたい診療科について尋ねた結果です(表)。内科希望が27人と最も多く、次いで小児科11人、整形外科が8人、外科と産婦人科が4人でした。今年の卒業生は小児科希望が多いことと、外科希望者が少ないことが特徴と言えます。外科希望者が減

少していることは全国的にも指摘されていますが、本学卒業生を見てもこの3年間減少傾向が続いていることが気になるところです。

2-4) 後期研修の動向は

調査時点で、後期研修を滋賀県内で行うことを考えている人は30人(35.7%)、39人(46.4%)は県外を考えており、6人(7.1%)は未定・無回答でした。過去2年の調査では、後期研修を県内でと考えている比率は、27.0%、30.2%でしたから、初期研修終了後、専門科を定めて県内で医療に従事しようと考えている卒業生の比率は増加していました。

県内の大学病院や施設で初期研修を受ける人の75%程度が後期研修も県内を希望していましたが、県外で初期研修を受ける人で、「県内」での後期研修を考えている人は8%程度に止まっていました。「魅力ある初期研修」の準備が、滋賀県で診療する医師確保につながると言えます。

3. まとめ

回答率が81%だったので、結果が卒業生の全体像を正確に捕らえたか、少し疑問の余地があります。それでも、結果を見ていると、入学したときから学生に接しているだけに、卒業に至るまで多くの学生が真剣に自分の進路に悩み、医師としてのスタートをきる場所を選択していることを強く感じます。県内の大学病院をはじめ研修指定病院は、学生たちの希望に応えるよう、魅力あるプログラムの準備や研修医の受け入れ体制の整備を熱心に進めています。学生の希望と県内の研修病院の努力を結びつける取り組みを、今後も強めていきたいと思います。

(表) 2014年度医学科卒業生の動向

		卒業年度 人数	2012年 100人	2013年 86人	2014年 84人
1.性別	男		58.0%	55.8%	61.9%
	女		42.0%	44.2%	38.1%
2.初期研修施設	大学病院		41.0%	40.7%	46.4%
	研修病院		57.0%	58.1%	52.4%
	その他		2.0%	1.2%	1.2%
3.初期研修 施設の所在地	滋賀県		33.0%	46.5%	41.7%
	滋賀県外		67.0%	53.5%	58.3%
4.研修施設 を選択するに あたって 重要視した事項	研修プログラム		77.0%	68.6%	61.9%
	研修施設の所在地		60.0%	53.5%	60.7%
	賃金・休日等条件		26.0%	19.8%	22.6%
	指導者		29.0%	40.7%	26.2%
	スタッフ等の雰囲気		53.0%	64.0%	46.4%
7.希望する専門科	内科		35.0%	36.0%	32.1%
	外科		16.0%	10.5%	4.8%
	小児科		9.0%	10.5%	13.1%
	精神科		4.0%	2.3%	2.4%
	産婦人科		10.0%	4.7%	4.8%
	整形外科		5.0%	5.8%	9.5%
	脳神経外科		2.0%	0.0%	1.2%
	眼科		1.0%	0.0%	2.4%
	耳鼻咽喉科		4.0%	1.2%	2.4%
	皮膚科		1.0%	5.8%	0.0%
	泌尿器科		3.0%	1.2%	1.2%
	放射線科		2.0%	0.0%	0.0%
	麻酔		2.0%	5.8%	0.0%
	家庭医学		5.0%	1.2%	1.2%
	その他		3.0%	7.0%	3.6%
	未定		6.0%	11.6%	26.2%
	未回答		3.0%	0.0%	3.6%

開催報告

～研修医、勤務医、開業、子育て～
卒後26年の四方山話

石塚 千恵先生をお招きし、第4回「卒業後の自分を考える」自主講座を平成27年1月22日に開催しました。

講演では、**大学卒業後の滋賀医科大学小児科での研修医（2年間）・医員（2年間）時代は**、医師としての基盤づくりと、結婚、第一子出産、夫の両親との同居が一気にスタートしたが、その新たな生活において「**自分中心の主張だけではダメで、周囲の人との協力と譲り合い**」が大切である事を学んだ。

びわこ学園医療福祉センターでの勤務医（9年間）時代は、医師として専門性と研究活動に専念し、第二子出産もあった。その環境で「**患者さんが中心で、その周りを囲む患者さんのご家族、上司、同僚の大きな輪の中に自分もいること、その和を大切にすること**」を学んだ。

そして現在、近江八幡市で開業医として地域の患者さんの疾患を診療するだけでなく、今までの経験を生かし育児支援のできる医師を目指し日々奮闘されている様子を生き生きと聞かせていただきました。

自分自身が一番と考える「ピラミット型」思考が多い現在において、関係者との和を一番と考えながら前向きに行動されてきた先生のお話から、参加された13名の学生は、将来への勇気と希望をもらうことができました。



♪参加された学生さんからの声♪

- 自分の将来に対するイメージや気持ちの持ち様を考えることができました。
- 自分のキャリア、子どもを産みたい気持ち、家庭を大切にしたい気持ちがせめぎあって、まだ研修病院の場所も何も決めることができていませんが、今日お話を聞いて、自分がいいと思うこと、大切にしたいことをその時々で考えながら、周りの協力も請いたいと思いました。そのためには自分自身の人柄や、困っている人へのヘルプを迷わすすることが重要なと思いました。
- 「自分自分」ではなく、患者さん、子どもを中心に周りの人々と協力しよう」とすると、上手く回り始めるものだ、という言葉が心にしみました。
- 女医さんのお話が聞きたいと思っていたので来てよかったです。すごい方だなと思いました。つながりのある人のために頑張ってくれたキラキラした目が印象に残りました。

- 母親として、女医さんとして、とても両立されているお話を伺いまして、私もばりばり働きたいなと思いました。今回参加できて本当に良かったです。
- すごく生き生きとしたお話がきけて、私も先生のように働いてみたいと思った。困難に立ち向かうのも、すごく糧になると思った。
- 家庭を大切にする女医さんのお話を聞くことができ、参考になりました。育児・仕事の両立はやりたいけど、自分にはできないと思っていましたが、私もがんばろうと思いました。ありがとうございました。

ご多忙の中、講演いただきました石塚 千恵先生
有難うございました。

今回は、兵庫医科大学からの参加者がおられました。
機構では他府県の大学で学ぶ学生さんの参加をお待ちしています。

石塚 千恵先生のプロフィール

滋賀医科大学医学科卒業生（8期生）
現在近江八幡市において開業（小児科）

開催報告

平成26年度FD（教育技能）研修会・意見交換会

滋賀医科大学里親学生に登録されている学生達と、里親、プチ里親に登録されている方々との懇談の場として、年に1回設けているFD（教育技能）研修会・意見交換会を1月29日に滋賀医科大学で開催しました。

滋賀医科大学副学長（教育・研究等担当）堀池喜八郎先生から、「地域医療と医学教育」と題して、現在ご担当されている教育活動や滋賀県の地域医療における問題点などについてお話がありました。

また、滋賀医科大学里親学生支援室長（滋賀医療人育成協力機構理事）の埴田和史先生から、「他大学からの事業参加もあり、少しずつではあるが事業の広がりを感している。今後も、地域の方々の支援を受けながら、地道に活動を行っていきたい」との挨拶がありました。



その後は、意見交換や懇談が行われました。

学生からは、「事業に参加することでより滋賀県を知ることができた」「今後、全国で若者を取り込んでいくという取り組みがあると思うが、地域の人たちがどのように動いていくのかに関心がある」との感想や、また、初めて参加された里親の先生からは、「里親として何かできるのではないかと思いますこの会に参加した」などの声が聞かれました。



開催報告

『講義・実習中における学生のスマートフォン・携帯電話等の使用』
に関するFD・SD (教職員の職能開発の取り組み) 研修会

平成26年12月に、「講義や実習中における学生の携帯・タブレット端末等の使用に関するアンケート」を滋賀医科大学・県内看護系教育機関と実習受入診療所の教職員の方々にお願いしたところ、376名（滋賀医科大学234名、看護系教育機関86名、実習受入の診療所等56名）から回答をいただきました。

研修会では、「376名からのアンケート調査結果」を基に、滋賀医科大学解剖学講座（神経形態学部門）相見准教授から、学生が携帯等を使用している現場で、学生の行為に対して教職員がどのような対応をしたか。また、どのように考えているか。

一方、学生は携帯等をどのような用途で使用するのか、どのような要望があるのかについて、話がありました。

続いて、滋賀医科大学医療情報部 永田教授とマルチメディアセンター 重歳助教から、「知っているようで知らない情報化社会の変化 学生たちに何を教える必要があるのか？」と題して、IT技術の進歩によってどの世代でも手軽に使える時代となりコンピューターリテラシーが低下していること、情報の発信や共有が簡単になったことによる問題が起きていることの話があり、SNS【Social Networking Service（ソーシャルネットワーキングサービス）】の具体的なしくみやリスク、またリスクに対してどのように対処すべきかの説明がありました。

講演後、授業での先生方の講義資料の提示の仕方などについての意見交換があったほか、「学生のマナーに関することや注意すべきことは、色々な場で繰り返し注意し、説明する必要がある。」などの意見がでました。

開催日：平成27年2月18日 滋賀医科大学看護第1講義室

参加者：滋賀医大および県内看護学校教職員 48名



開催報告

平成27年度理事会・総会を開催しました

4月30日開催の理事会では、総会に付議する事項を決めるとともに、本機構の活動を、将来は医療従事者になることを志す高校生にも周知する方法や、活動資金の確保に向け、きめ細かな対応をすることが話し合われました。

6月4日開催の総会では、平成26年度の事業報告及び活動決算、平成27年度の事業計画、活動予算を審議し、了承いただきました。

ご多用の中、理事会・総会にご出席いただきました理事・正会員の皆さま、有難うございました。



「滋賀県での在宅医療の始め方 ～学生の突撃インタビュー～」



滋賀県健康医療福祉部から「医師向け在宅医療の手引き作成」の業務委託を受け、滋賀医科大学 学生サークルTuk Tukのメンバーが、医師へのインタビューをもとに冊子「**滋賀県での在宅医療の始め方 ～学生の突撃インタビュー～**」を作成しました。ユニークな内容に県内外の関係者の方々に注目されています。

この企画リーダーを務められた医学科3年 高石亮太君からパンフレットが出来上がるまでの話を聞きました。

「医療×行政×学生」

滋賀医科大学 医学科 3年 高石 亮太

この春、『滋賀県での在宅医療の始め方 ～学生の突撃インタビュー～』というパンフレットが、滋賀県じゅうの医療機関に配布されたことを、皆さまはご存知でしょうか。滋賀医科大学社会医学講座の埴田先生、浅井東診療所の松井先生をアドバイザーに迎え、私たち滋賀医科大学の地域医療サークルTukTukの学生数名が半年以上の時間をかけて書き上げた冊子です。パンフレット作成にあたって、滋賀県内の延べ20か所以上の診療所など医療機関を取材させていただきました。取材させていただいたどの先生も、とても気さくな先生ばかりで、ときに答えづらいような質問にも、正直に答えていただきました。パンフレットでは、取材を通して得た、在宅医療をやるうえでのキーポイント、エッセンスなどを、マンガとともにわかりやすく、読みやすく紹介しています。学生らしい独自の切り口と自由な発想を大事にして、長い時間をかけて、何度も何度も議論を重ねて完成させました。在宅医療への関心のあるなしにかかわらず、ぜひ一度、お読みいただければと思います。

私はこのパンフレット作成のリーダーであったにもかかわらず、至らない点が多々あり、取材や執筆にあたったメンバーには多大な迷惑をかけてしまいましたが、いつも文句も言わずに大変な仕事をこなし、不甲斐ないリーダーをサポートしてくれたメンバーを誇りに思います。また、この企画を通して多くの方々と出会い支えられたことは私のかけがえのない財産となりました。取材にご協力いただきいろいろなことを教えていただいた先生方、学生のミーティングにも参加していただき、折に触れ激励の言葉をかけていただいた滋賀県庁の方々、企画の窓口として多大な、そして温かいご支援をいただいたNPO法人の皆さまに、振り返ってみれば私はいつも支えられていました。

私は在宅医療を一言でいうと、支えあいの医療だと思っています。お互いがお互いのことをよく知り、支え支えられる人間の営みの中に医療があるべきだと思います。そのような医療を私も将来的にやってみたいと思っていますし、考えてみれば、自分自身が医師になろうと思ったのも、根本的には人の役に立ちたいという思いがあるはずで、大切な人との出会いや別れがあったからのような気がします。人と人との温もりのある交わりを大事にする、そういう意味で在宅医療はとても大切な医療のかたちだと思います。

それだけに、冊子が完成したこと以上に、多くの人の支えのもとにこの在宅医療の冊子が出来上がったことに喜びを感じています。今ここに、学生と、行政と、大学、NPO法人、診療所がともに手を取り動き始める土台が出来上がりました。これは全国的にもまれなことではないでしょうか。私たち学生が行政や地域と手を取り合うことにより生まれる革新の力が、滋賀県に、日本の医療に、新たな風を吹き込むことを、ぜひご期待ください。

入会・ご寄附のご案内

皆さまからの会費とご寄附金を財源として、地域医療を担う医療人の育成支援に関する事業活動を進めて参りますので、出費がかさむ折とは存じますが、ご協力をお願いいたします。

会員は

会員の種類		会費	入会金（初年度のみ）
正会員	個人	年会費 2,000円 + 寄附金 3,000円以上	5,000円
	団体	年会費 5,000円 + 寄附金 5,000円以上	10,000円
賛助会員		毎年 1,000円以上 できましたら 3,000円以上	

ご寄附は

ご寄附いただく金額は決まっておりませんが、できましたら3,000円以上をお願いします。

入会・寄附に関するお問い合わせは、機構事務局（077-548-2802）にご連絡ください。

本機構が「認定特定非営利活動法人」になったことに伴いまして、ご寄附・賛助会費をご入金された方は「税制上の優遇措置」【寄附金控除、または寄附金特別枠控除（税額控除）】を受けることができます。

ご入金された方には「寄附金の受領書」を郵送しますので大切に保管いただき、確定申告時には、「申告書」に「寄附金の受領書」を添え最寄りの税務署にご提出ください。

なお、詳細につきましては、最寄りの税務署にお問い合わせください。

編集後記

今年の春の訪れは遅く、桜の花が咲いている中に雪が降ってきたり、一方、5月になった途端に「真夏日」になったりと天候が不順でしたが、ようやく「葉のささやきに 風を知る」すがすがしい初夏を迎えました。皆様はいかがお過ごしでしょうか。

昨年は本機構の企画に参加する滋賀医科大学学生以外の学生さんの数が増え、本当にうれしかったです。

また、活動資金面では、一般市民の方が会員になってくださったり、寄附をいただいたりと、こちらもうれしい広がりがありました。

お陰様で機構の活動は5年目を迎えます。

今年も地域住民の皆様の御協力とご理解をいただき、地道に活動を続けていきますので、どうぞ暖かく応援してください。

まずは夏の宿泊研修で、湖西地方を訪問します。湖西地方の皆さま、ご協力をお願いします。



NPO法人滋賀医療人育成協力機構 広報誌「めでる」vol.8

発行：平成27年6月30日
 編集：NPO法人 滋賀医療人育成協力機構
 所在地：滋賀県大津市瀬田月輪町 滋賀医科大学内
 TEL：077-548-2802 FAX：077-548-2803
 Email：satooya@belle.shiga-med.ac.jp
 URL：http://www.shiga-iryo-ikusei.jp/